

第2章 舞鶴市の子どもや子育て家庭を取り巻く環境

1. 人口動態

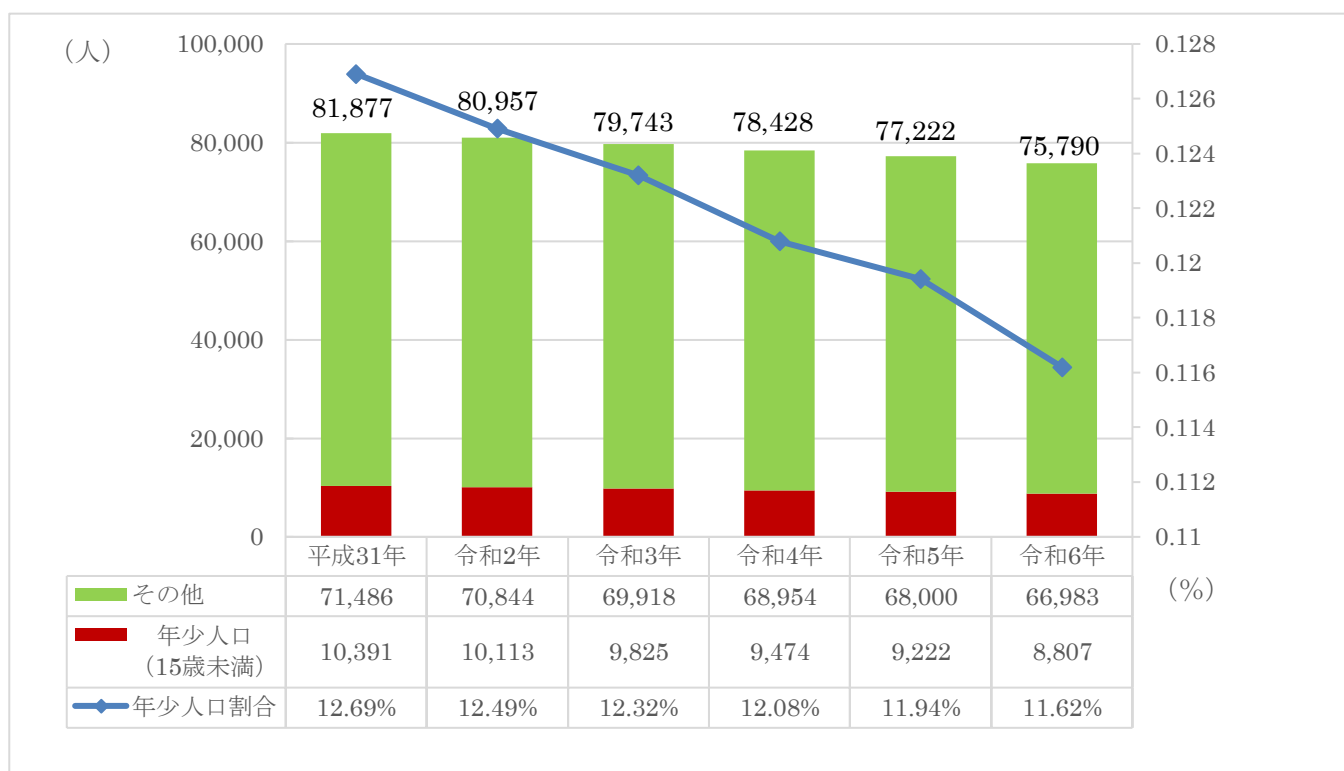
(1) 人口の状況

①総人口と年少人口の推移

総人口は、平成31（2019）年の 81,877人から 令和6（2024）年には75,790人となり、減少傾向で推移しています。

年少人口（15歳未満）も 10,391人から 8,807人に減少しており、総人口に占める年少人口割合は12.69%から11.62%となっています。

図表 1：総人口と年少人口の推移

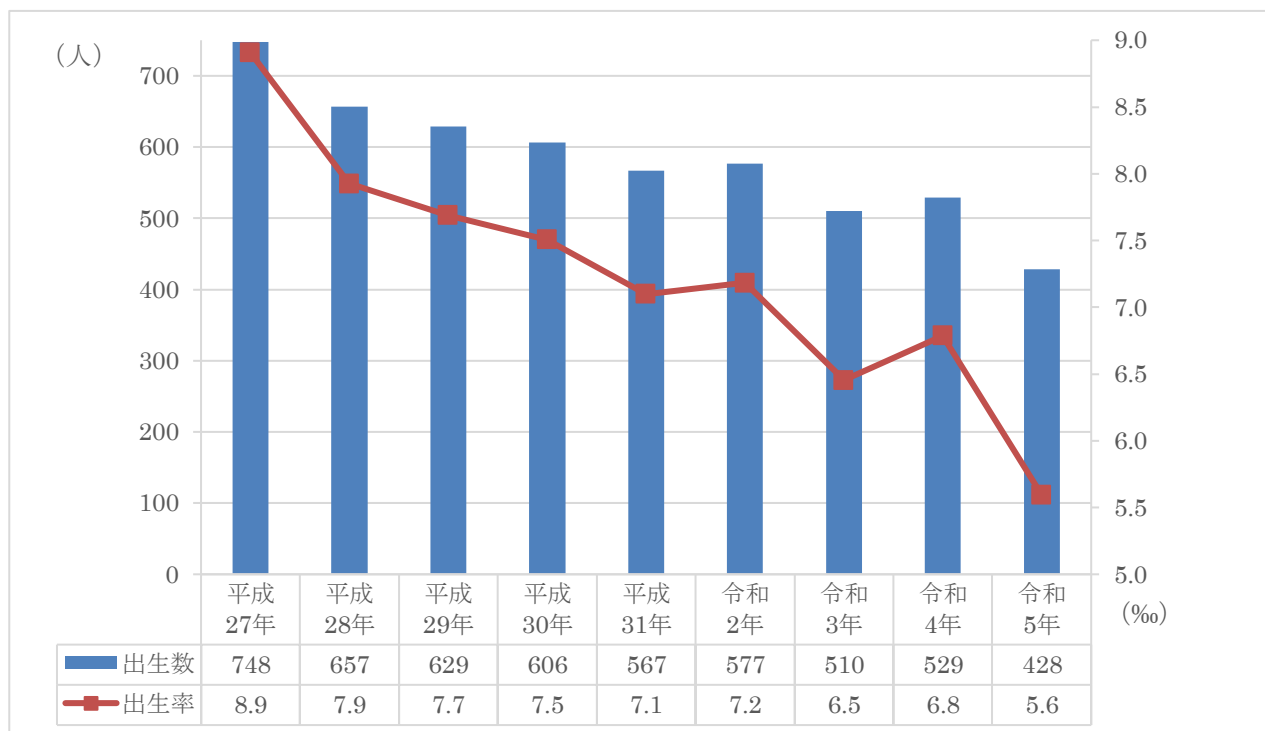


資料：住民基本台帳（外国人含む）、舞鶴市総務課（各年4月1日現在）

②出生数、出生率

本市の出生数は、令和5（2023）年で 428人となり、平成27（2015）年の748人と比較すると320人の減少となっています。また、出生率は、全国、京都府に比べて高い値で大方推移していますが、舞鶴市・京都府・全国のいずれも減少が続いています。

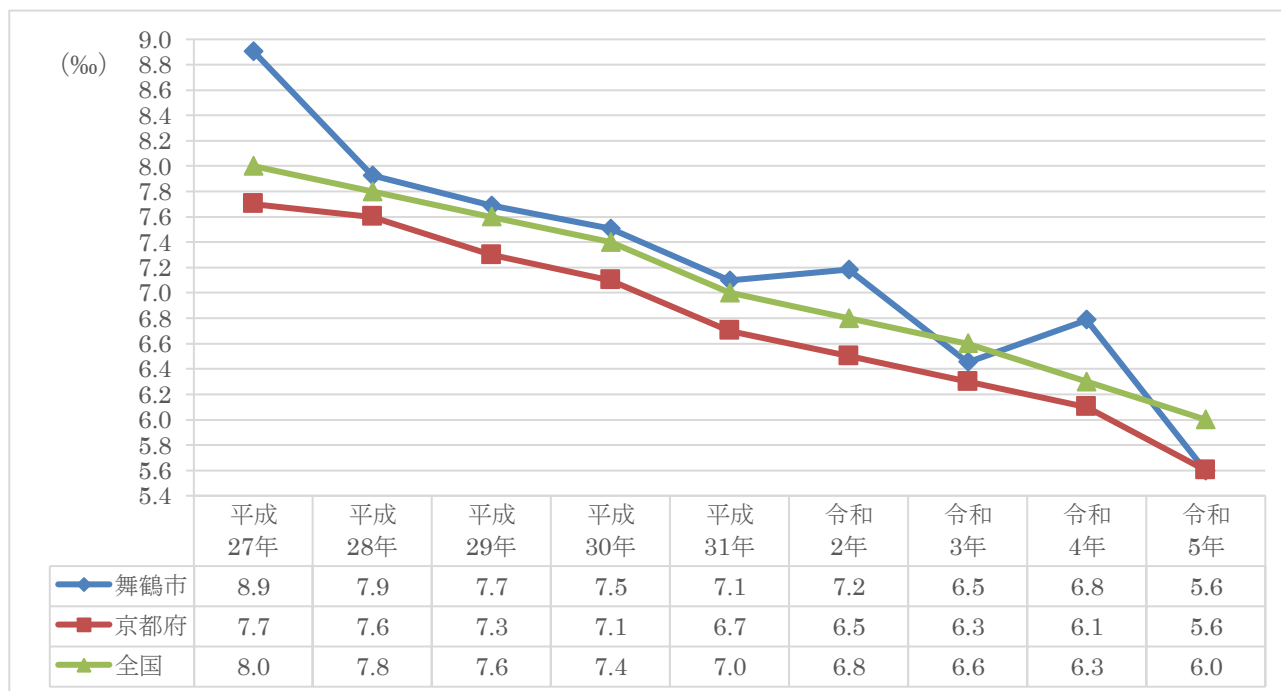
図表 2：出生数、出生率の推移（舞鶴市）



出生率（‰）＝総人口÷出生数×1000

資料：舞鶴市統計書、舞鶴市推計人口

図表 3：出生率の推移の比較

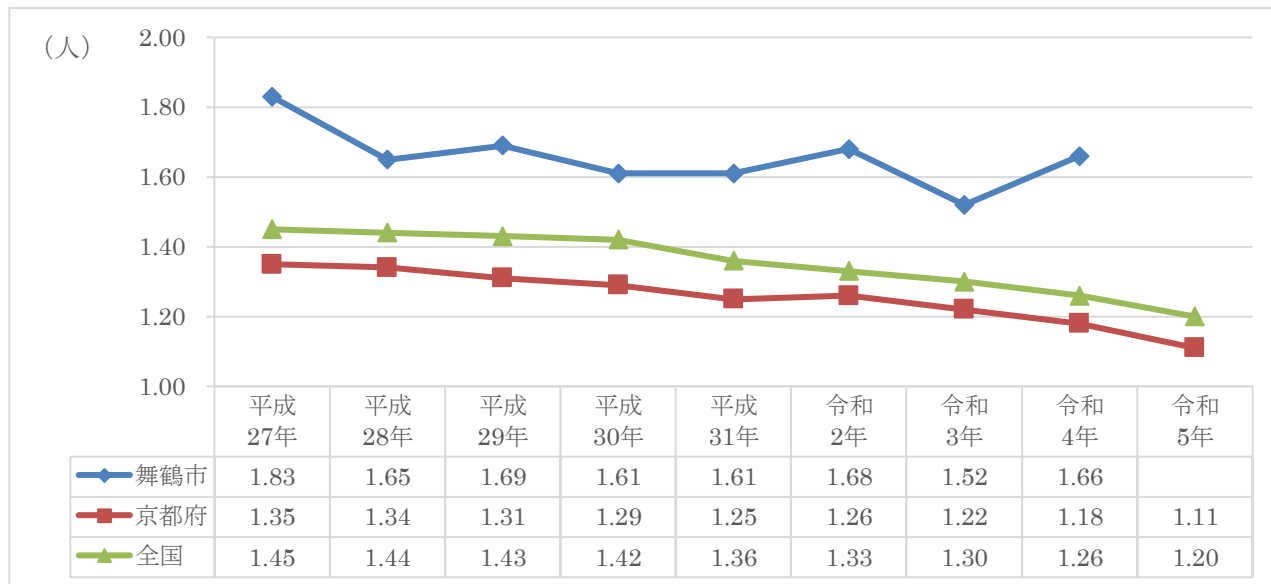


資料：人口動態調査、舞鶴市統計書

③合計特殊出生率

合計特殊出生率は、全国においては、平成27（2015）年以降ゆるやかな低下傾向で推移しています。また、本市においても、平成28（2016）年以降一時的に低下した年も見られますが、ほぼ横ばいとなっており、全国、京都府と比較すると高い値となっています。

図表 4：合計特殊出生率の推移



資料：住民基本台帳、人口動態調査

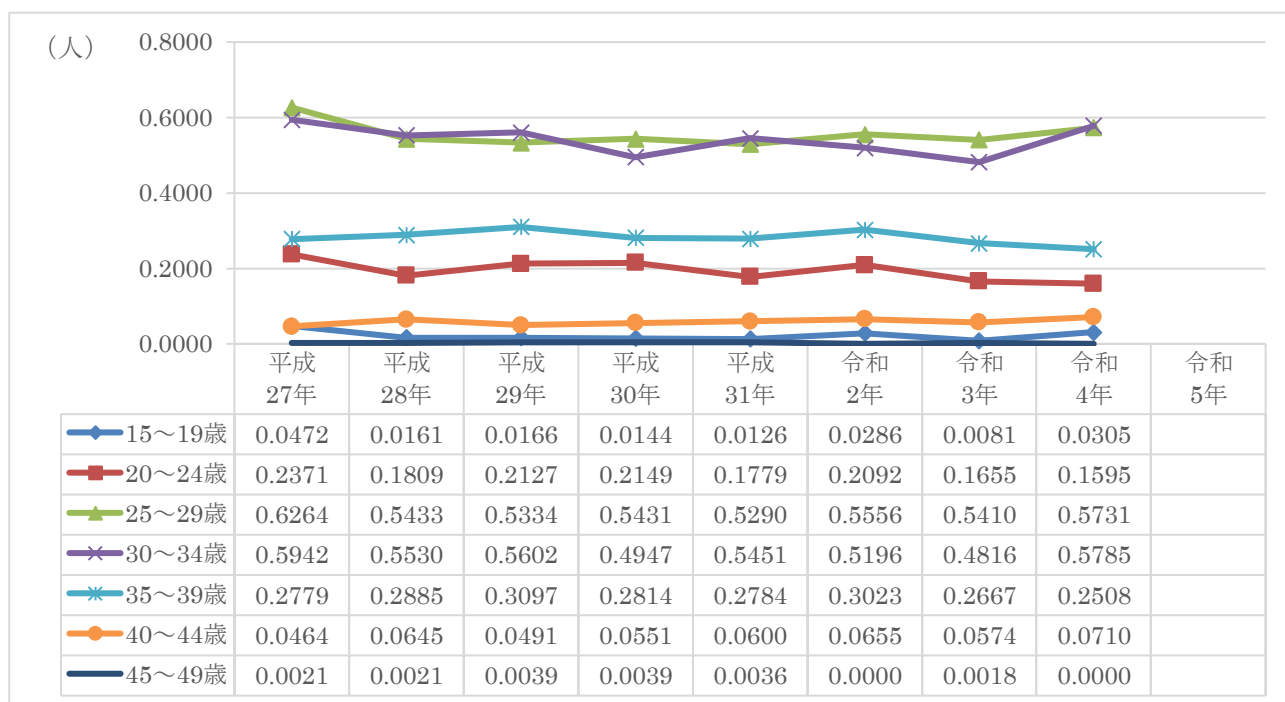
算出に用いる女性人口については、住民基本台帳に基づく日本人人口。

また、出生数のうち母親の年齢が不詳については除く。

④母親の年齢階層別合計特殊出生率

年齢階層別合計特殊出生率は、25～29歳及び30～34歳が高い値となっています。

図表 5：母の年齢階層別合計特殊出生率の推移



資料：住民基本台帳、人口動態調査

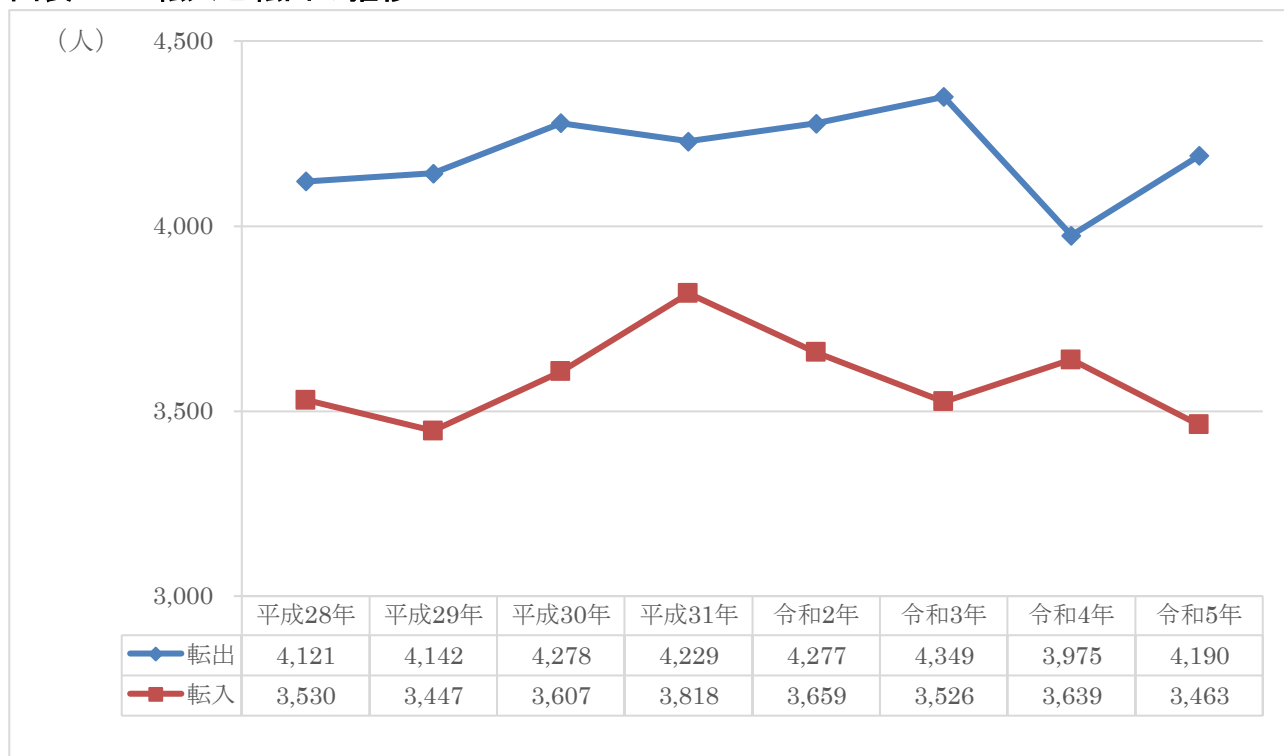
⑤転入と転出

転出者は平成28（2016）年以降増加傾向で推移していましたが、令和4（2022）年に大きく減少し、令和5（2023）年にまた増加しています。

転入者は、平成29（2017）年から増加していました。令和2（2020）年以降は、一時的に増加した年も見られますが、減少傾向で推移しています。

令和5（2023）年では 転出者が4,190人、転入者が3,463人となっており、転出者数が転入者数を727人上回っています。

図表 6：転入と転出の推移



資料：舞鶴市統計書

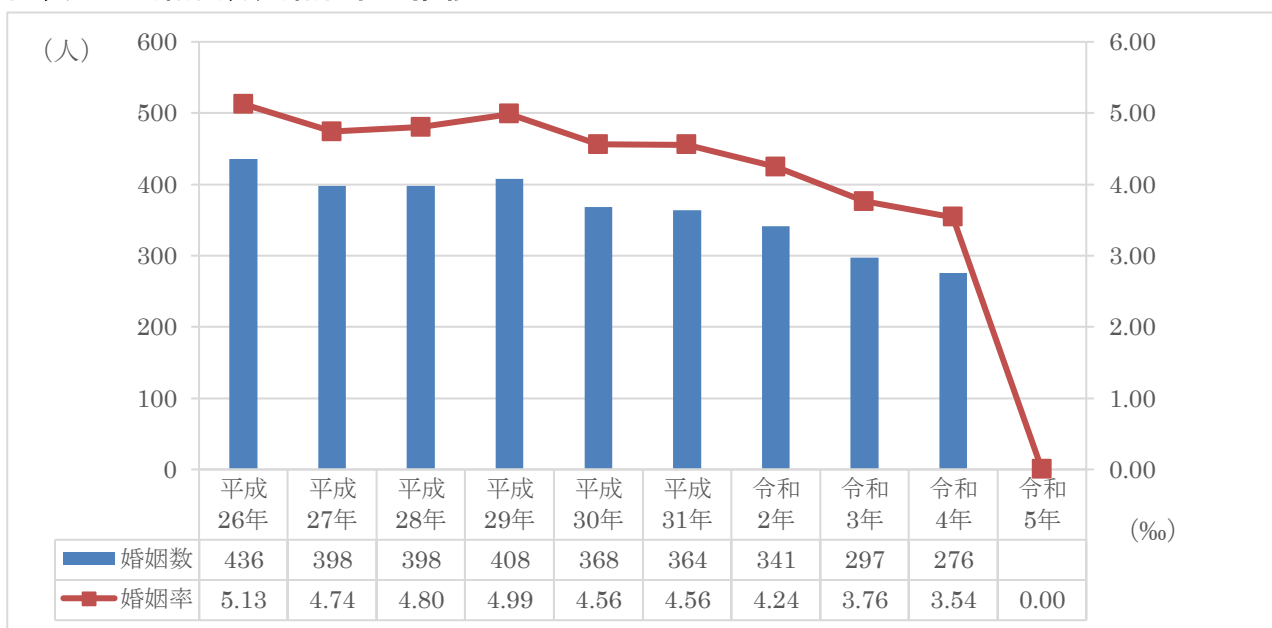
(2) 結婚・離婚の状況

①婚姻・離婚

婚姻数は、平成26（2014）年には436件となっており、平成29（2017）年まで400件前後を推移していましたが、平成30（2018）年以降は緩やかな減少傾向で推移しています。

また、離婚数は、平成28（2016）年から平成30（2018）年にかけて減少し、平成31（2019）年に増加したものの令和2（2020）年には大幅に減少しています。その後は増加傾向で推移しています。

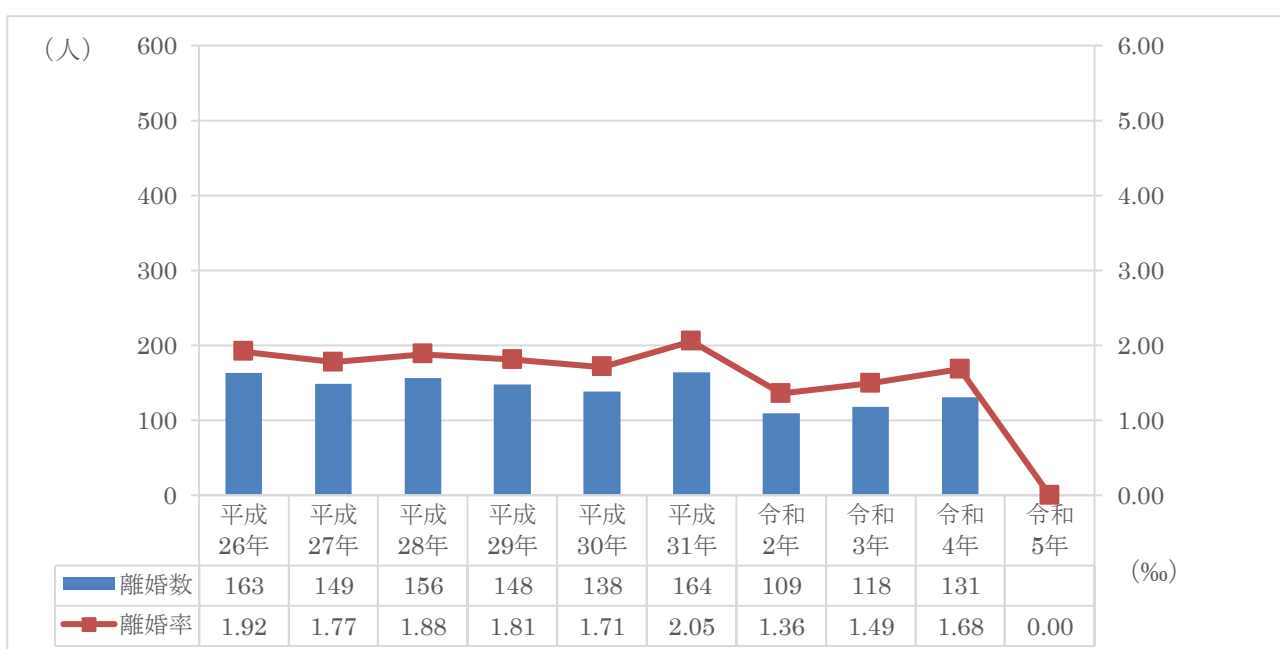
図表 7：婚姻数、婚姻率の推移



婚姻率（‰）＝総人口÷婚姻数×1000

資料：京都府保健福祉統計、舞鶴市推計人口

図表 8：離婚数、離婚率の推移



離婚率（‰）＝総人口÷離婚数×1000

資料：京都府保健福祉統計、舞鶴市推計人口

②平均初婚年齢

平成27（2015）年の本市における夫婦の平均初婚年齢は、男女ともに全国・京都府よりも1歳ほど早い状況となっていました。令和4（2022）年は、女性の平均初婚年齢はわずかに遅くなっていますが、依然として、男女ともに全国・京都府よりも早い状況が続いています。

図表 9：夫妻の平均初婚年齢の推移

（単位：歳）

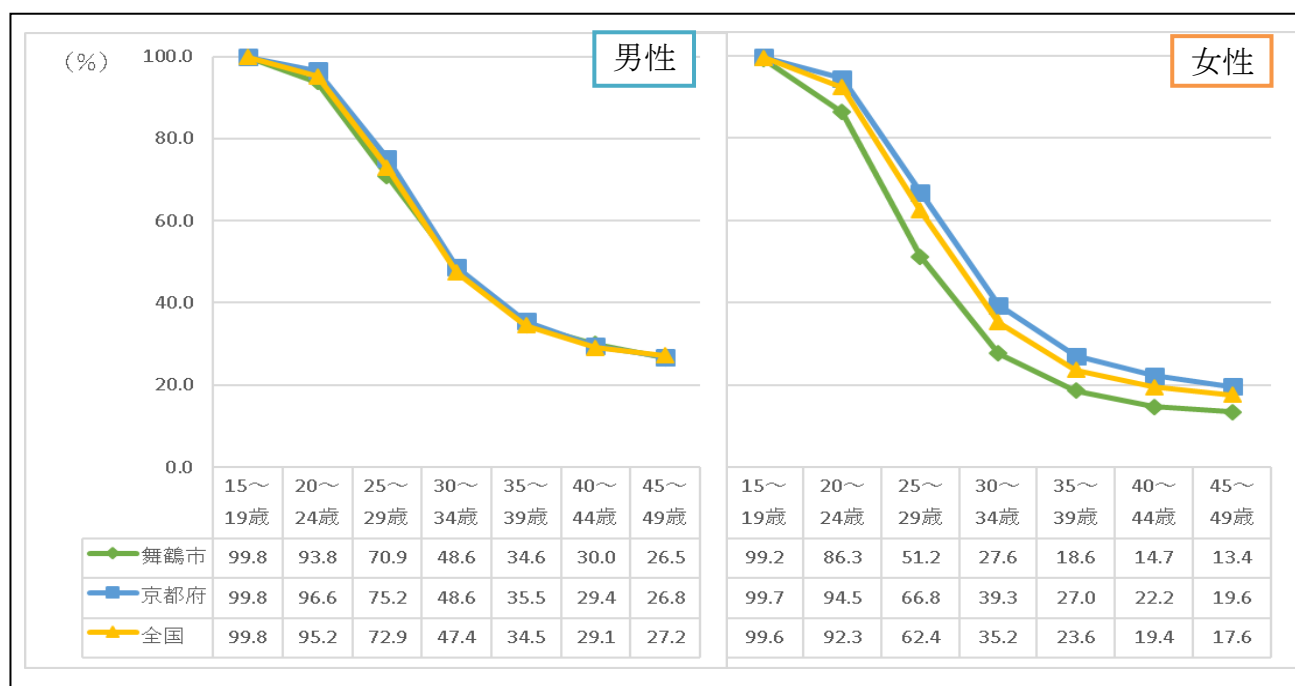
区分		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年
舞鶴市	男	30.2	30.8	30.5	30.5	30.4	29.1	29.7	30.1
	女	28.5	29.0	28.9	28.6	28.3	27.9	29.2	29.1
京都府	男	31.3	31.3	31.4	31.5	31.3	31.2	31.1	31.3
	女	29.7	29.6	29.8	30.0	29.8	29.7	29.7	30.0
全国	男	31.1	31.1	31.1	31.1	31.2	31.0	31.0	31.1
	女	29.4	29.4	29.4	29.4	29.6	29.4	29.5	29.7

資料：京都府保健福祉統計、人口動態調査
※各年に同居し届け出たものについての集計

③未婚率

本市の令和2（2020）年時点の男性の未婚率は、30～34歳が 48.6%、35～39歳が 34.6%、女性の未婚率は、30～34歳が27.6%、35～39歳が18.6%となっています。また、全国・京都府との比較では、各年代において、男性は同程度、女性は低い水準となっています。

図表 10：未婚率の国・府との比較（令和2（2020）年）

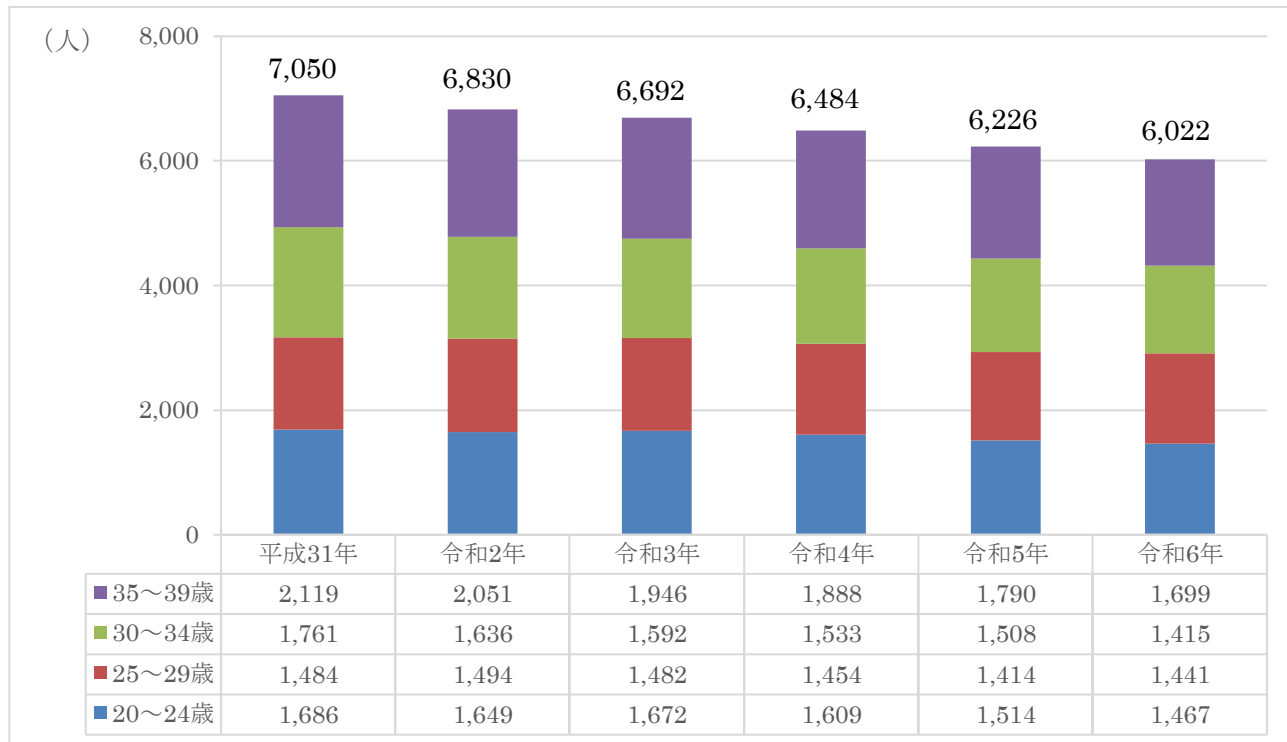


資料：国勢調査

④若年女性の人口

若年女性の人口は、各年代において年々減少し令和6（2024）年で6022人となり、平成31（2019）年の7050人と比較すると、全体では1,028人の減となっています。

図表 11：若年女性の人口の推移



資料：舞鶴市総務課（各年4月1日現在）、住民基本台帳（外国人含む）

2. 家庭・就労の状況

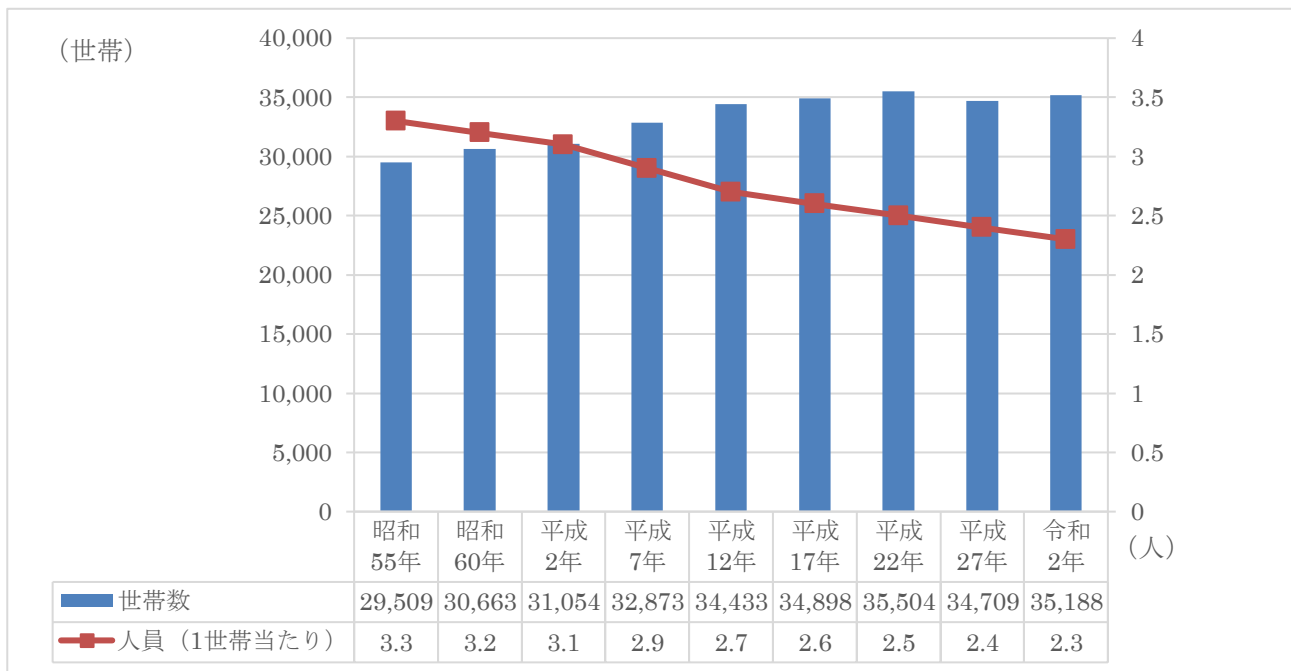
(1) 世帯の状況

①世帯数及び1世帯あたりの人員

世帯数は、昭和55（1980）年以降増加し続け、平成27（2015）年には一度減少に転じましたが、令和2（2020）年には再び増加し、35,188世帯となっています。

一方、1世帯あたり人員については、年々減少を続けており、令和2（2020）年には2.3人となっています。

図表 12：世帯数及び1世帯あたり人員の推移



資料：舞鶴市統計書

②世帯構成

世帯総数、核家族世帯ともに、増加を続けていましたが、核家族世帯は平成22（2010）年から減少に転じております。また世帯総数は平成27（2015）年に減少したものの、令和2（2020）年にまた増加しています。

図表 13：世帯構成の推移

（単位：世帯）

区分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
世帯総数	32,628	33,941	34,551	35,395	34,619	35,098
核家族世帯	19,697	20,614	20,665	20,618	19,967	19,148
その他の親族世帯	5,588	4,931	4,414	3,735	3,088	2,497
3世代世帯	3,624	3,470	2,937	2,295	1,884	1,431

資料：国勢調査

③世帯の家族類型

令和2（2020）年では、親族世帯のうち、核家族世帯は19,148世帯となっており、平成27（2015）年に比べて819人の減、その他の親族世帯は2,497世帯で591人の減となっています。また、単独世帯は13,193世帯で、1846人の増となっています。

図表 14：世帯の家族類型の推移

（単位：世帯）

家族類型別	平成 27 年	令和 2 年	6 歳未満	18 歳未満
			親族の いる世帯	親族の いる世帯
総 数	34,619	35,098	2,582	6,680
A 親族世帯	23,055	21,645	2,575	6,648
I 核家族世帯	19,967	19,148	2,314	5,768
(1) 夫婦のみ	7,985	7,894	－	－
(2) 夫婦と子ども	8,784	8,097	2,165	4,996
(3) 男親と子ども	461	466	12	79
(4) 女親と子ども	2,737	2,691	137	693
II その他の親族世帯	3,088	2,497	261	880
(5) 夫婦と両親	121	99	－	－
(6) 夫婦とひとり親	680	562	－	－
(7) 夫婦、子どもと両親	390	270	64	204
(8) 夫婦、子どもとひとり親	830	577	71	267
(9) 夫婦と他の親族（親、子を含まない）	82	78	3	23
(10) 夫婦、子どもと他の親族（親を含まない）	257	244	57	173
(11) 夫婦、親と他の親族（子を含まない）	39	32	1	3
(12) 夫婦、子ども、親と他の親族	146	78	35	66
(13) 兄弟姉妹のみ	171	202	－	2
(14) 他に分類されない親族世帯	372	355	30	142
B 非親族世帯	194	186	7	28
C 単独世帯	11,347	13,193	－	4
世帯の家族類型「不詳」	23	74	－	－

資料：国勢調査

(2) 就労の状況

①男女別の就業状況（15歳以上）

令和2（2020）年における15歳以上人口のうち、就業者は男性・女性合わせて37,585人で男女別の就業率は、男性64.0%に対し、女性は45.6%となっています。また、女性の就業率は44.4%から45.6%と上昇しています。

図表 15：男女別の就業状況の推移

（単位：人、%）

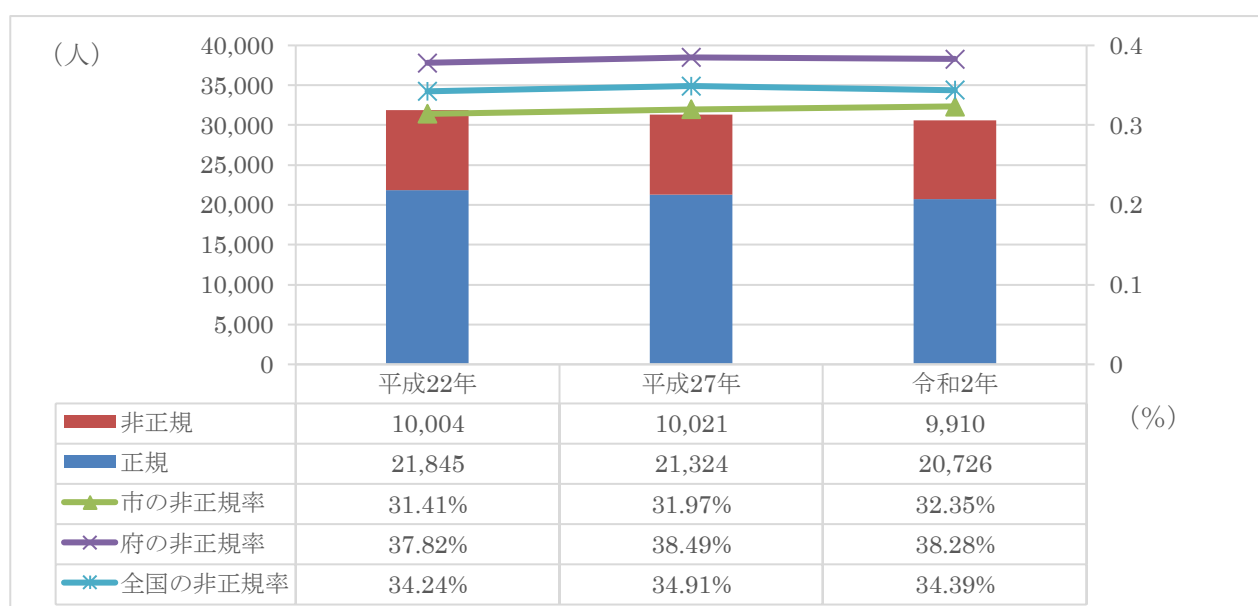
区分		総数 (A)	労働力人口（15歳以上）			非労働力 人口	就業率 (B/A)	備考
			総数	就業者 (B)	完全 失業者			
平成 27 年	男性	35,644	24,665	23,690	975	10,178	66.4	不詳は 1,584 人
	女性	36,552	16,725	16,236	489	19,044	44.4	
合計		72,196	41,390	39,926	1,464	29,222	55.3	
令和 2 年	男性	34,184	22,655	21,892	763	9,648	64.0	不詳は 3,613 人
	女性	34,439	16,150	15,693	457	16,557	45.6	
合計		68,623	38,805	37,585	1,220	26,205	54.8	

資料：国勢調査

②雇用者数

舞鶴市の令和2（2020）年における15歳以上の雇用者数は、正規雇用 20,726人、非正規雇用 9,910人の合計 30,636人となっています。なお非正規雇用率は、平成22（2010）年と比べてわずかに増加していますが、全国、府よりも割合は低くなっています。

図表 16：雇用者数の推移



資料：国勢調査

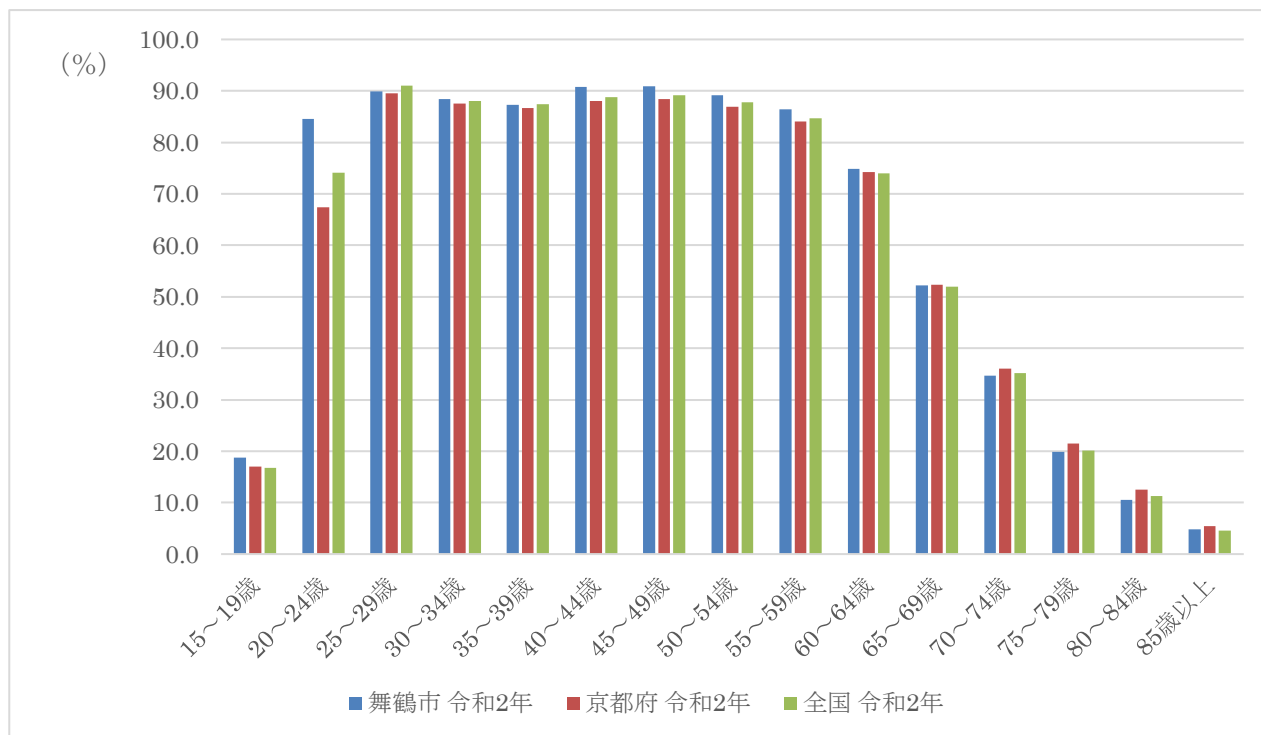
③年齢別労働力率（女性）

令和2（2020）年の女性の労働力率は、京都府、全国と比較すると20～24歳で高くなっています。それ以外の年代では府・国と同程度か少し高い割合を維持しています。

図表 17：年齢別労働力率の推移と比較

（単位：％）

	舞鶴市				京都府	全国
	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和2年	令和2年
15～19歳	14.4	14.2	13.2	18.8	17.0	16.8
20～24歳	75.1	73.6	74.9	84.5	67.3	74.1
25～29歳	67.0	68.3	74.8	89.9	89.5	91.0
30～34歳	58.8	64.6	68.2	88.5	87.5	88.0
35～39歳	59.3	65.5	72.2	87.3	86.7	87.5
40～44歳	70.5	69.7	76.7	90.7	88.0	88.8
45～49歳	72.6	76.5	78.6	90.8	88.5	89.1
50～54歳	69.4	73.1	78.6	89.2	86.9	87.8
55～59歳	61.7	62.5	71.3	86.4	84.0	84.6
60～64歳	40.8	47.3	52.3	74.9	74.2	74.0
65～69歳	27.8	29.7	35.0	52.2	52.3	52.0
70～74歳	18.5	19.2	21.3	34.6	36.0	35.2
75～79歳	13.0	12.9	13.7	19.9	21.5	20.2
80～84歳	8.4	8.5	8.1	10.6	12.6	11.3
85歳以上	3.1	4.7	3.7	4.9	5.4	4.6



労働力率＝労働力人口÷15歳以上人口（労働力状態不詳を除く）×100

資料：国勢調査

（労働力状態不詳を労働力人口（分子）、15歳以上人口（分母）の双方に含めない）

④産業別就業者数

就業者を産業別にみると、第3次産業の就業者が26,964人と最も多くなっています。また年代別にみると40～49歳の就業者が8,963人と最も多くなっています。

図表 18：産業別就業者数（令和2（2020）年）

（単位：人）

区分	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能	計
15歳～19歳	2	77	620	19	718
20歳～29歳	30	948	3,862	130	4,970
30歳～39歳	65	1,424	4,384	110	5,983
40歳～49歳	138	2,279	6,365	181	8,963
50歳～59歳	103	1,839	5,572	169	7,683
60歳～64歳	83	697	2,260	68	3,108
65歳～	889	1,099	3,901	271	6,160
総 数	1,310	8,363	26,964	948	37,585

資料：国勢調査

⑤主要産業別の主な就労状況

本市の常住地別の就業者数をみると、第1次産業では自宅、第2次・第3次産業では自宅外の自市町村がそれぞれ最も多くなっています。

また、市内（自宅及び自宅外の自市町村）で働く人は31,802人で、多くの人が市内で働いている状況となっています。

図表 19：主要産業別の主な就労の場（令和2（2020）年）

（単位：人）

区 分	総数	自宅	自宅外の 自市町村	府内 他市町村	他県	その他
総 数	37,585	3,381	28,421	3,056	1,805	922
		31,802				
第1次産業	1,310	902	361	20	23	4
農業	1,061	794	229	15	21	2
林業	23	2	19	2	0	0
漁業	226	106	113	3	2	2
第2次産業	8,363	555	5,629	1,119	928	132
鉱業、採石業、砂利採取業	11	1	7	2	0	1
建設業	3,592	332	2,275	177	751	57
製造業	4,760	222	3,347	940	177	74
第3次産業	26,964	1,838	22,060	1,893	840	333
電気・ガス・熱供給・水道業	473	3	298	30	135	7
情報通信業	113	36	56	14	7	0
運輸業、郵便業	1,508	41	1,109	239	91	28
卸売・小売業	5,195	472	4,174	387	90	72
金融・保険業	619	36	491	80	7	5
不動産業、物品賃貸業	425	57	309	32	24	3
学術研究、専門・技術サービス業	574	127	328	54	58	7
宿泊業、飲食サービス業	1,920	217	1,527	80	54	42
生活関連サービス業、娯楽業	1,093	265	731	58	24	15
教育、学習支援業	1,949	84	1,618	213	18	16
医療、福祉	5,198	217	4,496	317	107	61
複合サービス事業	382	3	285	86	5	3
サービス業（他に分類されないもの）	2,172	196	1,591	139	195	51
公務	5,343	84	5,047	164	25	23
分類不能の産業	948	86	371	24	14	453

資料：国勢調査

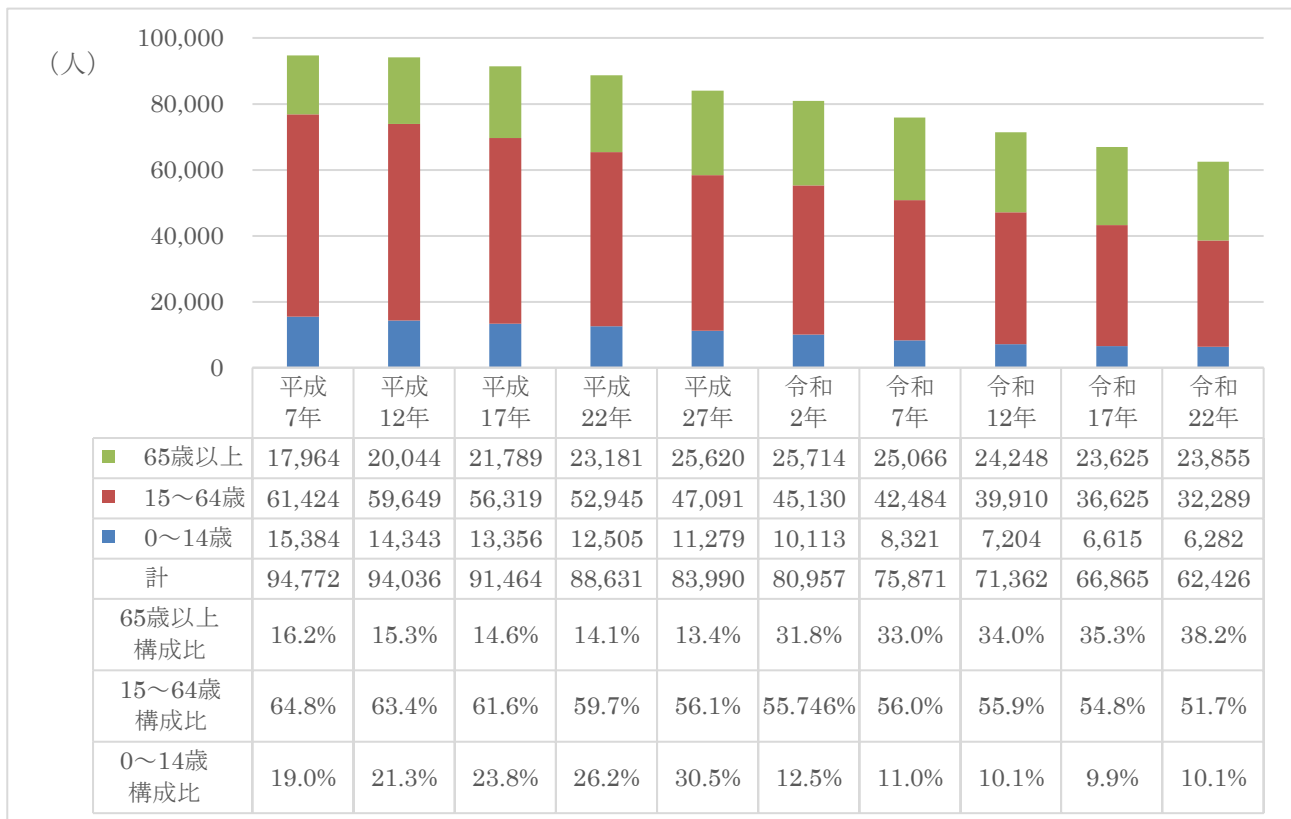
3. 今後の人口の推移

(1) 人口の推計

舞鶴市の総人口は、長期に渡り減少傾向にあり、令和7（2025）年には8万人を割る推計が出ています。

また、年代別では、0～14歳の全体に占める割合が平成7（1995）年の16.2%から令和22（2040）年には、10.0%にまで減少する試算がでており、一方で、65歳以上の割合は、平成7（1995）年に19.0%であったものが令和22（2040）年には38.2%まで上昇すると推計されています。

図表 20：人口の推計



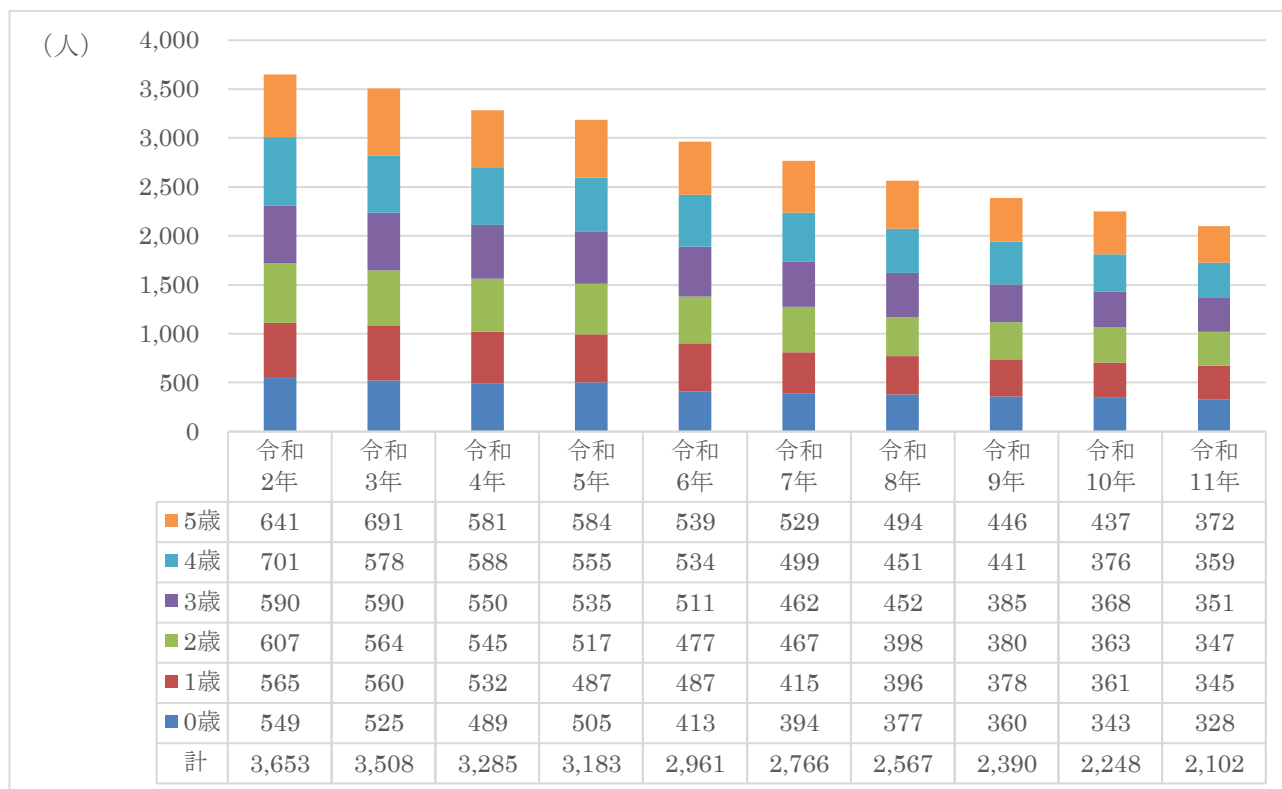
資料：国立社会保障・人口問題研究所

(2) 将来の児童・生徒の人口推計（就学前・小学生）

本市の就学前の児童数は、長期に渡り減少傾向にあり、令和6（2024）年には3,000人を切り2,961人となりました。今後の人口推計を算出したところ、就学前の児童数は今後も減少傾向が続き、令和11（2029）年には2,102人まで減少する見込みとなっております。

また、小学生の児童数については、令和6（2024）年では3,790人となっており、就学前の児童数同様、今後も減少傾向が続き、令和11（2029）年には3,008人となる見込みとなっております。

図表 21：就学前の児童数の推移

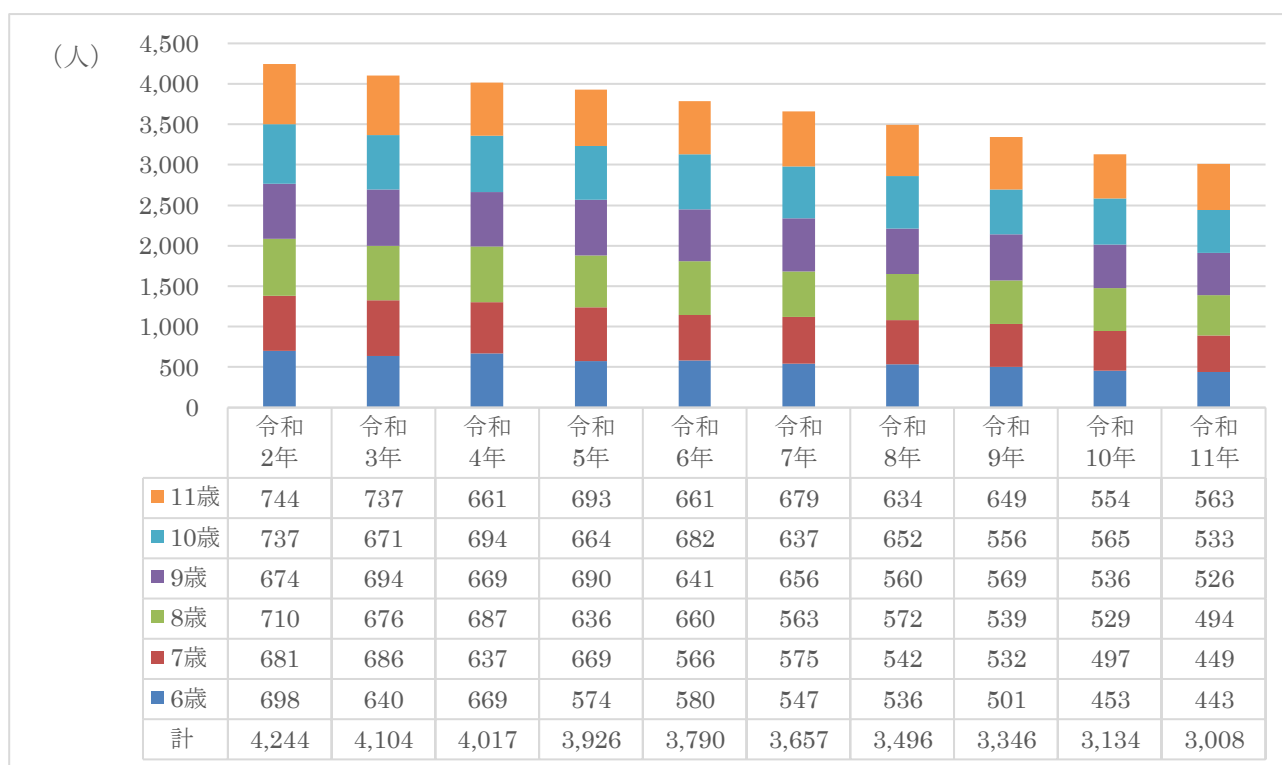


※令和2(2020)年～令和6(2024)年は実績、令和7(2025)年～令和11(2029)年は推計

資料：実績は住民基本台帳（外国人含む）、舞鶴市総務課（各年4月1日現在）

推計はコーホート変化率法を用いて算出

図表 22：小学生の児童数の推移



※令和2(2020)年～令和6(2024)年は実績、令和7(2025)年～令和11(2029)年は推計

資料：実績は住民基本台帳（外国人含む）、舞鶴市総務課（各年4月1日現在）

推計はコーホート変化率法を用いて算出